

国文学研究

第百六十七集

複合作品としての日並皇子尊哀悼歌

「玉寄する三崎」考

——「鴨長明集」の左注歌をめぐって——

『甲斐新話』における宿場女郎の手管

二つの「顔」と「鏡」

——夏目漱石「木屑録」と「倫敦消息」——

京都の遠景、京都の点景

——五足の靴・志賀・子規・吉井勇にみる風景表象——

宮嶋資夫『坑夫』とゴリーキーの〈放浪文学〉

——石井金次の人物像の二面性を中心に——

副詞「たいそう」の変遷

——近代語を中心に——

〈書評〉

斎藤菜穂子著『蜻蛉日記研究——作品形成と「書く」こと——』

佐々木雅發著『鷗外白描』

上野和昭著『平曲譜本による近世京都アクセントの史的研究』

井実充史	1
兼築信行	13
長田和也	23
解田和也	34
中島国彦	47
ブルナ・ルカーシユ	60
市村太郎	94
川村裕子	72
井上優子	75
奥村和子	80

二〇一一年度修士論文・卒業論文題目

新刊紹介 彙報 編集後記

前 号 目 次

「奉教人の死」における〈内破〉と〈疎外〉

篠崎 美生子 1

——『黄金伝説』を手がかりに——

メディア実験と他者の声

鳥羽 耕史 12

——安部公房「チャンピオン」と「時の崖」——

漢語辞書の語釈

今野 真二 24

〈書評〉

松本弘毅著『古事記と歴史叙述』

谷口 雅博 35

藤尾健剛著『漱石の近代日本』

山本 亮介 39



新刊紹介 彙報 編集後記